日刊 動労千葉

83. 12. 15

No. 1518

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

動労「本部」革マルを職場から一掃し、「59・2ダイ改」阻止、「3・25二期阻止」へつき進もう

津田沼支部大会

執行部を先頭に、津田沼支部136名は前進するぞ。

発言にたつ検修の代議員

十一月二九日、津田沼支部は第六回定期大会を電車区講習室で開催し、本部より中野委員長、布施書記長、吉岡交渉部長、重見特執が参加、また、来賓として中江船橋市議、上野建一衆院一区候補を迎え、四〇名をこえる代議員、傍聴者の活発な討論をとおして83年度運動方針を決定した。

動労「本部」革マル一掃こそ最重要課題だ
――山下支部長あいさつ――

大会は、議長に酒井富士太代議員を選出、冒頭あいさつにたった山下支部長は、「帝国主義の崩壊的危機の中で、レーガン・中曽根は三度世界戦争へ乗りだそうとしている。三里塚こそ戦争を阻止する道だ。反動中曽根の延命をかけた国鉄労働運動解体攻撃に対して屈服し、動労千葉、国労破壊の尖兵となり、昇給問題で反動的本質を表わした動労『本部』革マル一掃こそ我々の最重要課題だ。三里塚と国鉄労働者の決起を軸に、中曽根打倒へ突き進もう」と力強く訴えた。

つづいてたった中江船橋市議は、「国鉄労働運動は、一九五二年から五三年代へと逆行してきている。動労『本部』は、労働組合の仮面をつけた資本の手先となり下った。闘いはこれからが正念場。私は、国鉄労働者の闘いを地域からつつむ闘いを行いたい。下総基地の闘いを三里塚と結合させ、反戦・反核の闘いを先頭で闘う」とあいさつと報告を行った。

中野委員長は、「12・15国鉄労働者総決起集会を成功させ、国鉄と三里塚の結合で中曽根を打倒しよう。動労『本部』革マル追放一掃へ、さらに奮闘しよう」と訴えた。

とりわけ昇給問題について、「動労『本部』革マルは、反動協定締結によって一層組織的危機にたちいたっている。『59・2』ダイ改、動乗勤との闘いの過程で、さらに追いつめ、動労大改革を実現しよう」と述べた。

また「年末の総選挙闘争は、中曽根を追いつめるチャンス、総力で闘おう」と、全組合員の年末から来年3・25三里塚へいたる闘いへの奮起を訴えた。

忙しい中かけつけた上野候補は、「社会党の後退は、平和と民主主義の後退だ。戦闘的、階級的労働運動の命運をかけた闘いとしても一体となって闘う。ともに中曽根を打倒しよう」とあいさつした。

新執行体制を確立

つづいて執行部より、経過報告と運動方針案と予算案が一括提起され、質疑討論に入った。

討論は、昇給問題、「59・2」ダイ改、動乗勤、動労「本部」革マル送りこみ問題、職場規律と処分問題、動労大改革等についてだされ、本部、支部から答弁がなされる中で、83年度運動方針案を満場一致で確認した。

つづいて新役員を選出、永嶌青年部長の指揮による組合歌合唱、山下支部長の団結ガンバローで閉会した。

支部通信員・発

新役員は次のとおりです。

執行委員長	山下　幸	42才	電運士
副執行委員長	綾部光男	37才	〃
書記長	吉岡　一	32才	〃
書記次長	高石正博	38才	〃
執行委員	深見四郎	41才	〃
〃	伊藤詔一	41才	〃
〃	高橋邦彦	37才	〃
〃	川口春雄	37才	〃
〃	椿　勇	33才	〃
〃	川崎昌浩	25才	検修係
特別執行委員（青年部長）	永嶌　務	25才	電運士
会計監査	大木　孝	35才	〃
〃	渡辺敏博	39才	検査係
〃	篠塚康則	27才	事務係

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！